

アグリビジネス創出フェア in 東海 Web展示

INPIT 愛知県知財総合支援窓口

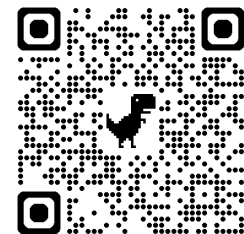
- ① 工業所有権情報・研修館 (INPIT) について
- ② 知財総合支援窓口の概要
- ③ 知財の保護活用の必要性が出てくる場面
- ④ 支援事例(農水関係抜粋)
 - JFぼうぜの地域ブランド戦略支援
 - 地域団体商標の権利取得支援
 - 地域の生活と産業に根差した朝市の活性化の支援
 - 市民一体で市を盛り上げる!NPO 法人による商店街のブランド戦略
 - 「のとキリシマツツジ」の地域団体商標取得支援



INPIT

愛知県知財総合支援窓口

<https://chizai-portal.inpit.go.jp/madoguchi/aichi/>



1. 工業所有権情報・研修館（INPIT）について



独立行政法人 工業所有権情報・研修館

INPIT（インピット）




National Center for Industrial Property Information and Training

- 経済産業省・特許庁所管の独立行政法人
- 特許庁と連携し、知的財産（特許・意匠・商標等）に関する総合支援を行う機関

1. 工業所有権情報・研修館（INPIT）について



◆ INPIT事業の三本柱


情報提供	知的財産権（特許・意匠・商標等）の権利状況や審査の経過情報が閲覧できるインターネット検索サービスの提供	 特許情報プラットフォーム
権利取得・活用支援	知的財産の権利取得から活用まで幅広くサポートする各種無料相談窓口の設置	 知財支援はINPIT 日本の中小企業経営を支えたい 知財の観点から、知財総合支援窓口がサポートします！
人材育成	知的財産に関する研修の開催や、eラーニング教材の提供	 IpePlat 知財を知る。知財で稼ぐ。

2. (1) 知財総合支援窓口の概要



訪問による
支援も実施します！

Web相談
OK



電話相談
OK

◆知財総合支援窓口（47都道府県に設置）
中小企業等の経営課題の解決に向けて、「知的財産」の側面から支援する地域密着型の相談窓口。
経験豊富な企業O B等が相談対応。

より専門的な内容の相談は、弁理士・弁護士・ブランドアドバイザーといった専門家やよろず支援拠点をはじめとする関係支援機関と連携し、課題の解決に向けて効率的・網羅的な支援を提供。



2. (2) 知財の保護活用の必要性が出てくる場面



支援をする中で、以下のキーワードを聞いたことはありますか？

- 農産品の新しいブランド名を考えた
 - 新しく作った農産加工品に商品名をつけて販売したい
 - 海外展開したい
- 新たな事業展開のフェーズ

知財を意識せずに進めてしまうと、このようなリスクが...

商標侵害の疑いで警告・紛争発生
模倣品・類似品による発注減少
ノウハウの漏洩



知的財産の保護活用の重要性が高まっているかもしれません！

知財総合支援窓口にお気軽にご連絡ください。
知財の観点から、皆さまの支援をサポートします！

～ 支援事例 ～

※ 事例は、知財ポータルサイトの全国の農水関係を抜粋しております。

<https://chizai-portal.inpit.go.jp/supportcase/>



JF ぼうぜの地域ブランド戦略支援 【INPIT 兵庫県知財総合支援窓口】

企業情報

坊勢漁業協同組合

所在地	兵庫県姫路市		
ホームページ URL	https://boze.or.jp/		
設立年	1944 年	業種	農林水産業
従業員数	466 人	資本金	110,740 万円

企業紹介

瀬戸内海の東、姫路から南西約 18km の播磨灘に位置する家島諸島の 1 つ。新鮮な海の幸と、活気溢れる港町。瀬戸内海の潮待ち要所として、古くから多くの旅人が訪れる漁業の島です。この坊勢島の漁業協同組合です。総漁船数およそ 900 隻の坊勢島は、1 つの漁港あたりの漁船数が日本一と言われています。

相談のきっかけ

2017 年 7 月、連携先である兵庫県加西市の兵庫県立農林水産技術総合センターから、「坊勢の海産物のブランド保護」に関する相談について、INPIT 兵庫県知財総合支援窓口にて知財支援の依頼があり、外部窓口にて支援したことが相談のきっかけです。

支援概要

地域ブランド戦略に強い専門家（永井道彰弁理士）と連携し、坊勢の水産資源の知財保護を目指すための支援、地域ブランド支援、「ぼうぜがに」「ぼうぜ鯖」地域団体商標支援等、坊勢島「坊勢漁協」や坊勢漁協運営の海鮮市場「姫路まえどれ市場」にて複数回の継続支援を行いました。

「ぼうぜ」と平仮名表記に統一し、この平仮名表記の使用を徹底し、周知性獲得に向け積極的なプロモーションを行う戦略で地域団体商標取得ができました。

支援成果

支援の結果、「ぼうぜがに」（商標登録第 6504512 号）と「ぼうぜ鯖」（商標登録第 6504513 号）が地域団体商標として登録され「白鷺鱧」や「華姫さわら」等独自ブランドも商標登録されました。ブランドの統一や地域団体商標登録の相乗効果で知名度が更に向上したことで、テレビ・新聞・雑誌・ネット記事に多数取り上げられ利益と売上増につながっています。



企業コメント

地域団体商標を登録しただけではなく、支援を通じてブランド戦略の重要性を理解しました。ぼうぜ蟹は「ぼうぜがに」、坊勢鯖は「ぼうぜ鯖」で統一、またタグやシールは、主体を「坊勢漁業協同組合」「JF ぼうぜ」に統一して、地域ブランド力の強化につながりました。

窓口担当者コメント（氏名：孝橋敦司）



兵庫県立農林水産技術総合センターと連携し、専門家との協働支援により「ぼうぜがに」と「ぼうぜ鯖」の地域団体商標登録の支援ができたこと、坊勢漁業協同組合の水産物のブランド力向上ができたこと大変うれしく思っております。

地域団体商標の権利取得支援【INPIT 東京都知財総合支援窓口】

企業情報

特定非営利活動法人 銀座ミツバチプロジェクト

所在地	東京都中央区		
ホームページ URL	https://gin-pachi.jp/		
設立年	2006 年	業 種	農林水産業
従業員数	4 人	資本金	なし

企業紹介

銀座ミツバチプロジェクトは、銀座の周辺で働く有志たちがビルの屋上でミツバチを飼い、はちみつを製造する活動です。皇居・浜離宮・日比谷公園で甘い蜜を蓄えたミツバチは、銀座に花や緑をもたらし、都市部の養蜂として多くの困難を乗り越えてきました。銀座ミツバチプロジェクトの商品は、銀座の有名デパートやオンラインストアで販売しています。

相談のきっかけ

「銀座はちみつと言う名前が銀座以外で作られたはちみつが販売されている。模倣品ではないか。」との相談で INPIT 東京都知財総合支援窓口に来訪されました。「ぎんぱち」等の商標権は保有しておられましたが、「銀座はちみつ」も商標登録出願したいとのことから、支援を開始しました。

支援概要

「銀座はちみつ」は地域名と普通名称の組合せのため、通常の商標ではなく、地域団体商標を取得する必要があることや、一定の地域でよく知られている必要があることを説明しました。また、商標法第7条の2各号の出願人の適格性や地域団体商標出願に特有の提出物件について説明し、早期審査に関する事情説明書も含めた電子出願について支援しました。さらに、周知性欠如の拒絶理由への対応方法を説明し、多数の資料を収集し提出していただきました。意見書の作成にあたっては、日本弁理士会が提供する弁理士ナビで商標専門の弁理士を探していただき、民民契約したことで早期登録が実現しました（商標登録第6783053号）。



支援成果

当初は模倣品対策相談でしたが、その場で対策には権利取得が必要なことに気づき、地域団体商標取得に結びつきました。国内で「銀座」の名称を冠した街は多数ありますが、最も著名な東京都中央区の「銀座」を含んだ初めての地域団体商標の取得は、権利者をはじめ多数の銀座の著名人に勇気を与えました。相談者は出願まで「銀座はちみつ」「銀座のはちみつ」「銀座産はちみつ」等、ばらばらの標章表示で品物を販売していましたが、相談後は標章の統一を行い、現在は銀座の著名百貨店で「銀座はちみつ」やその加工品の売上げを着実に伸ばしています。

企業コメント

私共は「銀座はちみつ」で銀座の老舗デパート、ホテル、社交料飲等の多くの企業様と地産地消の実現と商品作成を行って参りました。地域団体商標はその活動を守ってくれるものです。INPIT 東京都知財総合支援窓口でアドバイスを頂戴し地域団体商標を取得することができました。

窓口担当者コメント（氏名：久保 省二）



私にとっても初めての地域団体商標出願支援だったため、共に多くのことを学ばせていただきました。大都会「銀座」のビルの屋上で養蜂を行っていることを多くの皆様に知っていただき、自然と人との共生の重要性を知ってもらうきっかけとなれば幸いです。

企業情報

飛騨高山宮川朝市協同組合

所在地	岐阜県高山市		
ホームページ URL	https://www.asaichi.net/index.html		
設立年	1947 年	業種	—
従業員数	38 人	資本金	66 万円

企業紹介

飛騨高山宮川朝市は、高山市市街地中心部を流れる宮川沿いに並び朝市です。伝統食材や、工芸品、四季折々の新鮮な品が早朝から並びます。地域の人も観光で訪れる人も、出店者との高山ことばを交えた会話を楽しみながら、買い物を楽しむことができます。

相談のきっかけ

新型コロナウイルス感染症が拡大し始め、行動自粛により観光業が大打撃を受け始めた頃、再び日常的に観光が楽しめるようになったときにさらに朝市を盛り上げていけるよう、飛騨高山の朝市ブランドとして商標を活用したいと考えられ、組合役員の方から INPIT 岐阜県知財総合支援窓口にご相談が寄せられました。

支援概要

商標を活用した組合員の団結や組合事業の活性化には、地域団体商標の取得及び活用が有効であることを説明し、役員をはじめ組合理事 OB の理解も得ながら支援を進めました。中部経済産業局から、制度説明、他団体の地域団体商標活用の事例を紹介いただき理解を深められました。地域団体商標登録に必要な資料の収集や、第三者による紹介記事掲載のルール化など出願に向けた助言は、専門家（弁理士）を活用して支援しました。また、手続は代理人に委任し、組合では組合活動の活性化や周知活動に注力されました。

支援成果

組合員の理解の深化、代理人との信頼関係の構築により、2023 年 2 月に地域団体商標「飛騨高山宮川朝市」が登録されました（商標第 6668705 号）。観光業も徐々に回復し、賑わいを取り戻した朝市をさらに盛り上げるため、地域団体商標登録記念イベントとして企画した「朝市にでんけな？」は毎回募集枠が全て埋まる盛況ぶりです。お試し出店をきっかけに出店者間の交流が増え、早速 3 事業者の協同組合の準会員加入につながりました。



企業コメント

新型コロナウイルス感染症拡大により観光業への影響に終わりが見えない苦しい時に、同窓口の支援が継続的に得られました。これを機会に組合員自らが地域団体商標の活用方法や組合の活性化について継続的に考え、実行できたことは、今後の活動に対して大きな自信につながりました。また日本各地にある朝市の中で、最初の地域団体商標登録を受けられたことは大変光栄です。

窓口担当者コメント（氏名：渡辺奈津子）



地域の生活と産業に根差した同組合の皆さんの懐は深く、伝統を大切にしつつ新しいものを吸収されています。朝市を通して人や事業者の交流の場を包み込むような印象は、側を流れる穏やかな宮川の流れのようで、これからも知的財産活用を通して応援していきます。

市民一体で市を盛り上げる！NPO 法人による商店街のブランド戦略【INPIT 愛知県知財総合支援窓口】

企業情報

NPO 法人みんなで豊川市を盛りあげ隊（事務局 豊川市観光協会内）

所在地	愛知県豊川市		
ホームページ URL	http://toyokawa-moriage.com/		
設立年	2013年	業種	宿泊・飲食業
従業員数	85人（隊員数・賛助隊員）	資本金	—

企業紹介

豊川稲荷の門前町として発展を遂げた愛知県豊川市。いなり寿司発祥の地の一つとされ、オーソドックスな味から創作いなりまで豊富な種類を楽しめるのが「豊川いなり寿司」の魅力です。市民のまちおこしボランティア活動が盛り上げてきたブランドは「豊川いなり寿司マイスターの講習」を受けてもらい「市内で製造・販売」しているものを認定し、現在、市内では約50店舗で、約300種類の豊川いなり寿司を提供しており、組合員の経済的地位の向上を図ることを目的に活動しています。

相談のきっかけ

市民一体の盛り上がりを決定付けたのは、平成25年に豊川で開催された第8回「B-1グランプリ in 豊川」で、「豊川いなり寿司で豊川市を盛りあげ隊」がホストとしておもてなしの運営に市民も協力したことです。それにより豊川いなり寿司のブランディング活動への理解も深まり、中部経済産業局知的財産室からのご紹介により、INPIT 愛知県知財総合支援窓口の相談員が訪問したのがきっかけです。

支援概要

ブランド化に大変関心が高かったため、特許庁地域ブランド推進室、中部経済産業局知的財産室、専門家（岩田弁理士）とも連携し、「豊川いなり寿司」の周知性を証明するため、新聞記事、ポスター、歴史や沿革を示す第三者の出版記事等を収集し、地域団体商標出願と早期審査申請手続きを支援しました。その結果、地域団体商標として登録され（商標登録第6013646号）、中部経済産業局作成「中部のたからモノ」の地域団体商標活用事例10選にも掲載されました。また、「地域振興キャラクター活用マニュアル」等も紹介し、契約支援を行いました。

支援成果

地域団体商標「豊川いなり寿司」が登録されたことでメディアにも報道され、市長を巻き込んだブランディング活動への弾みとなり、豊川いなり寿司フェスタ、豊川いなり寿司教室など新たな飛躍を計画・実施しています。また、INPITの商店街支援の広報紙に「豊川いなり寿司」が支援事例として掲載されました。



企業コメント

NPO 法人として全国でも4番目に地域団体商標を登録でき、豊川市のブランド戦略として豊川いなり寿司の50店舗を盛り上げ、観光客を迎えてのおもてなしイベントなど精力的に活動しております。地域ブランドを育てるトップランナーとして新たなる商品づくりの意欲に繋げ、被服などに使用したキャラクターの売上も好調であり、アフターフォローにも大変感謝しています。

窓口担当者コメント（氏名：井上 勝）



まちおこしがNPO法人化の目的であり、ボランティアでお金がない中、ブランド力を高める工夫としてイメージキャラクター「いなりん」、イベントなどグッズ展開を実施されています。隊員にも信頼の厚い女性担当者の方の熱意が素晴らしく、中部経済産業局知的財産室の方のバックアップの協力も得られ、大きな前進を与えて頂いたと考えています。

「のとキリシマツツジ」の地域団体商標取得支援【INPIT 石川県知財総合支援窓口】

企業情報

特定非営利活動法人のりとキリシマツツジの郷

所在地	石川県鳳珠郡能登町		
ホームページ URL	https://notokirishima.com/npo/		
設立年	2009 年	業 種	農林水産業
従業員数	2 人	資本金	—

企業紹介

当法人は、のりとキリシマツツジの保護・保存、調査、研究、情報発信を行い、のりとキリシマツツジを核とした能登地区の特色あるまちづくりの推進を目的として設立されました。2004 年に当法人の設立母体団体が能登地区の愛好者や育成者に働きかけて名称を「のりとキリシマツツジ」に統一し、2021 年に日本植物協会 ナショナルコレクションの認定を受けました。



相談のきっかけ

のりとキリシマツツジは花の特徴から 10 品種ありますが、そのうち能登固有種 3 種の名称公募の相談のための石川県知財総合支援窓口への相談がきっかけでした。のりとキリシマツツジについてお話を伺うと、江戸時代初期に薩摩藩より江戸に持ち込まれ人気を博し、陸路や北前船による海路により能登に伝来後能登の人に愛され、現在でも樹齢百年以上の古木が 500 株以上地元に残存するなどをお聞きし、地域団体商標取得をお勧めしました。

支援概要

まず商標取得目的として、高品質な商品（成木、苗木）の提供を行い地域産業発展に資するため、模倣品からの消費者保護を共有しました。出願用提出物件準備では、「地域の名称と商品との関係」について法人が長年取組んできた学術研究成果を簡潔にまとめる支援を行いました。「需要者間での認知度の客観的に証明する事実」について県外での展示即売会の継続的実績はあるものの、同法人が販売している構図の手持ち写真が少なかったことから、報道機関等のネット情報を根気よく調べて準備しました。出願後の拒絶理由通知では周知性とアウトサイダーとの関係を示す情報提供が求められましたが、同法人の長年の活動蓄積に加え、関係団体との良好な関係作りがあり、迅速な情報提供ができ、登録査定に至りました。

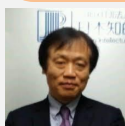
支援成果

地域団体商標取得により、関係者が「のりとキリシマツツジ」という名前を再認識し、どのように育てていくのかの意識を新たにすることに繋がりました。今後の需要拡大への貢献が期待されます。

企業コメント

江戸時代より 300 年以上に渡り息づいている「のりとキリシマツツジ」は能登の歴史そのものとも言えます。5 月連休前後が開花時期です。連休中は能登空港でのイベントや能登半島全域で開催するオープンガーデンで「のりとキリシマツツジ」を鑑賞して頂けます。今回の地域団体商標登録支援を通じ、地域の大切な資源としてブランド価値を高めることを考えるよい機会になりました。今後も広く知って頂く様に取り組みたいと思います。

窓口担当者コメント（氏名：池島裕之）



支援を通してのりとキリシマツツジの歴史と地元の方々の想いを学び、これら価値をどのように伝えるかを考えました。今後も地域の文化・産業の発展に資する支援を心掛けたいと思います。

水産業普及指導員の皆様の活動にもご利用いただけます！

指導している漁業協同組合への
ブランド専門家派遣(熊本県)



普及指導員会議で知財総合支援
窓口担当者と意見交換(宮崎県)



普及指導員ブロック研修会(九州)
で知財活動に関する講義(大分県)



支援事例(熊本県)



熊本県八代漁業協同組合が球磨川の河口域で養殖している青のりは、新鮮な香りを食卓に届けるため、その形と長さを保つ「手摘み」にこだわり、長さを維持しながら丁寧に真水で洗浄後、まっすぐ籠に並べ乾燥させ、手作業で一つつ袋に詰めていきます。

このこだわりの青のりのブランディングの一環として、「八代青のり」を地域団体商標として商標登録出願することになり、その出願方法について熊本県知財総合支援窓口にご相談して専門家(弁理士)の支援を受け出願し、登録することができました。

また、商標が有効に活用されるようブランド専門家のアドバイスを受けることもできました。



知財総合支援窓口を利用して(熊本県県南広域本部)

地域団体商標出願に至るまで大変スムーズに進めることができたほか、専門家のアドバイスにより、取組みの方向性が定まるなど、漁業者のブランドに対する意識が更に高まりました。

支援事例(宮崎県)



宮崎県目井津港に水揚げされる魚は、以前から「めいつ獲れ」として県内はもとより築地市場等へも出荷されてきました。中でも定置網で漁獲されるアジは評価が高かったため、目井津を代表する魚としてブランド化しました。

「めいつ^{びびあじ}美々鰯」と名付けた旬のアジは、知名度の向上とともにさらに引き合いが強くなり、「美々鰯」を商標登録出願したいと考えました。そこで、宮崎県知財総合支援窓口にご相談したところ、専門家(弁理士)により登録商標の効力や出願手続きに関するアドバイスを受けることができました。また、作成したポスター等の著作権関係についても専門家(弁護士)の指導を受け、未着手だった権利関係の整理を進めることになりました。



知財総合支援窓口を利用して(宮崎県南那珂農林振興局)

丁寧に対応してくれました。また、信頼できる弁理士にもアドバイスしていただき、出願手続きがスムーズに行えました。

INPIT愛知県知財総合支援窓口

【ご相談申込方法】 ※事前予約制

◆電話 052-753-7635（平日9時～17時）

◆メール

①お名前（会社名）

②ご担当者名（会社の場合）

③郵便番号・ご住所

④電話番号（連絡の取れる時間帯）

⑤メールアドレス

⑥相談の概要

◎担当者から連絡させていただきますので、①～⑥をご記入の上、下記宛へお申し込みください。

aichi-chizai-info@task-school.com